

# 周辺の地震 ～大地震はいつどこで起きてもおかしくありません!～

平成7年に発生した「阪神・淡路大震災」以降、近年では、新潟県中越地震、能登半島地震、新潟県中越沖地震、岩手・宮城内陸地震など、大きな地震が頻繁に発生しています。宇陀市においても、同様の地震が発生する可能性があります。

阪神・淡路大震災では、亡くなられた方の約9割が、住宅の倒壊や家具の下敷きなどによる圧迫死や窒息死であったとされています。大地震はいつどこで起きてもおかしくありません。住まいの耐震化など、今から地震に備えておきましょう。

## ■ 周辺で起こりうる主な地震

周辺の地震	マグニチュード	地震発生確率※
奈良盆地東縁断層帯地震	7.4	ほぼ0%～5%
名張断層地震	6.9	—
東南海・南海地震(同時発生)	8.5	60%～70%

※地震発生確率は、30年以内に発生する確率です。  
出典:地震調査研究推進本部の公表値(評価時点:平成22年1月1日)



## ■ どこでも起こりうる地震

想定地震	マグニチュード	地震発生確率※
市内直下型地震(想定)	6.9	—

※周辺で起こりうる主な地震以外にも、未知の断層が宇陀市直下で動くことは否定できません。したがって、そうした地震についても想定地震として考慮しておく必要があります。



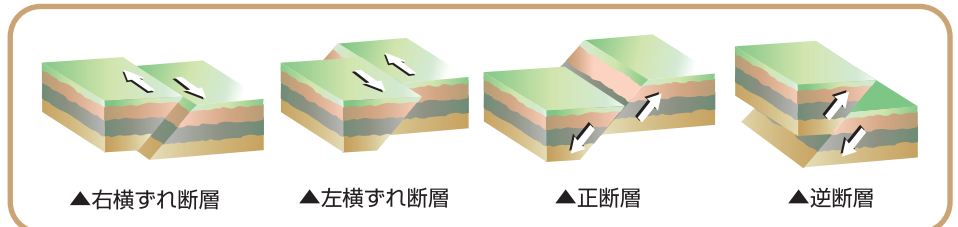
## 震度とマグニチュード

地震のエネルギーの大きさをマグニチュード、地面が揺れる大きさを震度と呼びます。マグニチュードが大きい地震でも、震源が遠い場合や深い場合は、震度が小さくなります。マグニチュードが1増えると、地震のエネルギーは約32倍にもなります。

# 地震がおこるしくみ

## 1. 活断層地震

地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで内部にひずみのエネルギーが溜まり、これが限界に達したときに、ある面(断層面)を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。



## 2. 海溝型(プレート境界型)地震

海側のAプレートが陸側のBプレートの下にもぐりこむことで境界にひずみのエネルギーが溜まり、これが限界に達したときにプレートがもとにもどろうとしてはね上がり、地震が起こります。

